3　ソ連邦の動向

1144　昭和12年7月18日　広田外務大臣より在ソ連邦重光大使宛（電報）

ソ連が中国に軍事同盟締結を提議したとの情報に関しソ連側に軽挙妄動の不利益なることをほのめかし策動阻止方訓令

本　省　7月18日後5時55分発

第三二七號（極祕、至急）

南京發本大臣宛電報第五二四號（見当ラズ）ニ關シ

申迄モナキ儀ナカラ十分御注意ノ上ソ側ニ於テ輕擧妄動スルカ如キコトアラハ甚タ不利益ナルコトヲ可然ホノメカシ之ヲ阻止スル様御配慮アリタシ尚歐米方面ニ於テモ本件眞相可然突止ムル様電訓シオキタリ

1145　昭和12年7月18日　広田外務大臣より在独国武者小路大使、在米国斎藤大使宛（電報）

ソ連の対中軍事同盟提議説に関し査報方訓令

本　省　7月18日後5時58分発

合第五七三號（極祕、至急）

南京發本大臣宛電報第五二四號ニ關シ

北支事變發生後ソ聯ヨリ支那側ヘ軍事同盟締結ノ用意アル旨申入レタリトノ報ニ付テハ貴地ニ於テモ十分御注意ノ上參考トナルヘキ情報電報アリタシ

本電宛先　獨、米

獨ヨリ訓令トシテ英、佛、伊、波蘭ヘ轉電アリタシ

1146　昭和12年7月22日　在上海岡本総領事より広田外務大臣宛

ソ連の対中軍事同盟提議説は確証なく疑わしい旨報告

機密第一四三五號　（7月26日接受）

昭和十二年七月二十二日

在上海
總領事　岡本　季正〔印〕

外務大臣　廣田　弘毅殿

「蘇」側ノ蘇支密約提議說及北支事變ニ對スル蘇側態度ニ關スル「オシヤーニン」談報告ノ件

本件ニ關スル往電ニ對シ更ニ詳細報告方御電訓ノ次第敬承本月二日「ソ」側ハ支那側ニ對シ不侵略及相互援助條約ノ締結方ヲ申入レ更ニ今次事變發生後ノ本月十日軍事同盟締結ノ用意アル旨提議シタリトノ諜報アリタル處(當地陸軍武官室ニ於テモ同樣諜報ヲ入手セル處諜報者ハ從來ノ成績ヨリ見テ相當信用シ得ル者ナル趣ヲ以テ眞相確カメ方依賴アリタリ)斯種情報ハ從來屢々傳ヘラレタル所ニテ又「ソ」側カ豫テ南京ニ對シ對日抗戰ノ決意ヲ唆カシ居ルコトハ上海商學院院長斐復恆(蔣介石ニ親シ)カ同盟松本ニ打明ケタル次第モアリ事實ニ相違ナカルヘキモ最近ノ「ソ」支關係及後述ノ如キ事情ヨリ觀テ又提議セリト言ハルル當日頃ニハ「ボゴモーロフ」大使ハ當地ニアリテ南京ニ居ラス尙又斯カル重要提議ヲ爲スヘキ人物南京ニ居ラサリシ事實ニモ鑑ミ前記諜報ノ眞僞ハ相當疑ハシキモノアル樣考ヘラレタルカ時局柄ニテモアリ館員ヲシテ七月十八日偶來滬セル「ソ」聯邦大使館「オシヤーニン」書記官(南京ニ常駐ス)ニ確カメシメタル處同書記官ハ最近「ソ」側ヨリモ又支那側ヨリモカカル提議ヲ爲シタルコト無ク假ニ「ソ」側ヨリ提議スルモ支那側ハ「ソ」聯邦ヲ恐レ警戒シ居ルヲ以テ之ニ應セサルヘク又支那側ヨリ之ヲ提議シ來ルカ如キコトハ全然考ヘラレサル所ナリト答ヘ支那側ニ果シテ「ソ」支兩國ノ關係ヲ現狀ヨリ前進セシメ改善セントスル希望アルヤ疑ハシク少クモ自分(「オシヤーニン」)ハ支那側ニハカカル希望無シトノ印象ヲ受ケ居レリト述ヘタル由ナリ。更ニ他方外論編譯社々長方煥如(情報司長李廸俊ト特殊關係アリ)ハ館員ニ對シ十四日南京ヨリ歸來セルモ同地ニ於テハ何等本件ノ如キコトヲ耳ニセス一寸考ヘラレサルコトナル旨語リタル由ニシテ今日迄ノ處「ソ」側ヨリ前記ノ如キ申込ヲ爲シタリトノ確報無ク又其ノ模樣モ認メラレス本件ハ或ハ南京側ノ宣傳ニ非スヤトモ思惟セラル

又北支事變ニ關シ「オシヤーニン」書記官ハ館員ニ對シ盛ニ質問シ事變ニ關スル情報ハ極メテ多岐ニ亘ルモ前途ノ見透シヲ付クルニ足ルモノ少ク困リ居レリト述ヘタルカ館員

ノ質問ニ對シ莫斯科政府ノ事變ニ對スル態度ニ關シテハ未タ莫斯科ヨリ電報ニ接セサルヲ以テ何等申上ケラレサルモ莫斯科モ事件ノ見透シツカサル爲態度ヲ決定シ得サルモノト思考スト述ヘ更ニ館員ヨリ前駐「ソ」支那大使館附武官鄧文儀ハ今次ノ事變ニ關シ「ソ」側ニ泣キツク爲數日前當地出發急遽浦潮ニ向ヘリトノ情報傳ヘラレ居ル處如何ト質問シタル處「オ」書記官ハ承知シ居ラスト答ヘ今日迄ノトコロ「ボゴモーロフ」大使ニ對シ支那側ヨリハ何等申出テ來リ居ラス又「ボ」大使ハ事件發生以來何人ノ訪問モ受ケタルコト無ク又何人モ訪問シ居ラスト語レリ當地ニ於ケル「ソ」側ハ概シテ冷靜ナルヤニ見受ケラル

「ソ」側カ我北支工作ヲ以テ對「ソ」開戰ノ準備工作ト觀シ居ル次第ハ莫斯科ノ新聞雜誌ニ依リ見ルモ明カナル所ニテ「ソ」聯邦カ今次事變ニ際シ何等策動スヘキハ容易ニ想像セラルル所ナルカ當地外人方面ニ於テハ「ソ」聯邦ハ從來其ノ對支政策ノ重點ヲ支那民衆ノ抗日意識煽動ニ置キ種々宣傳煽動シ來レルカ支那民衆ノ抗日意識ヲココ迄導キタルハ大成功ニテ「ソ」聯邦ハ正ニ目的ヲ達シタルモノト謂フヘク又國內的ニハ「トハチエースキー」元帥處刑後赤軍ノ動搖未タ鎭マラス外部ニ手ヲ伸ハス余裕ハ無カルヘク旁今次事件ニ際シ策動シ事件ノ渦中ニ捲込マルルカ如キハ避クルナルヘク從テ支那民衆ニ對スル抗日戰爭ノ煽動ノ如キハ無論愼マサルヘキモ南京政府ニ對スル政治的策動延テ同政府トノ連繫ハ此際敢テ爲ササルヘシト觀測スル向多シ

「ソ」側ノ黑幕ニ躍ル共產黨ハ救國會、事變後結成セラレタル民族復興協會等ニ喰入リ暗躍シ居ル模樣ナルモ民衆踊ラス未タ表面化シ居ラス又諜報ニ依レハ中「ソ」文化協會ハ諸外國ニ對シ大々的ニ宣傳ヲ開始スヘク準備中ナリトノコトナルカ未タ具体的ニ活動ヲ開始シタル模樣認メラレス

尙「ボゴモーロフ」大使ハ本月二十日南京ニ赴キ又大使館附武官「レーピン」ハ本月十九日賜暇ヲ得テ歸國シ情報部長「サラートフツエフ」書記官ハ未タ歸任セス當地ニハ副領事「シアンスキー」總領事代理トシテ在ルノミ北平ニハ「スピリワネク」總領事アリテ事態ヲ注視シ居レリ

右報告ス

本信寫送付先　在華大使　北平　在滿大使　天津

1147　昭和12年7月25日　在中国川越大使より広田外務大臣宛（電報）

ソ連の対中軍事同盟提議説など同国策動の情報に関する日高参事官と英国大使との意見交換について

南　京　7月25日後発
本　省　7月25日夜着

第五八九號
往電第五二四號ニ關シ
廿五日日高參事官英大使ト會談ノ際同大使ヨリ最近「ソビエット」ヨリ支那ニ提携方申入レタリトノ噂ヲ耳ニセリトテ意見ヲ求メタルニ依リ日高ヨリ同樣ノ噂ハ豫々聞キ居ルモ事實ナリヤハ大イニ疑ハシ但シ今次ノ事變ニ乘シ「コミンテルン」ヨリ絲ヲ引キ居ル中國共產黨カ種々策動シ居ルコトニ關シテハ相當確實ナル情報ヲ得居レリト言ヘル處大使ハ自分モ蘇支提携談ニハ信ヲ置カス但シ共產黨ノ點ハ自分ニモ前ヨリ聞込アリト述ヘ居タリ何等御參考迄（不在）
北平、上海、天津、漢口ヘ轉電セリ

1148　昭和12年8月2日　在中国川越大使より広田外務大臣宛（電報）

中ソ軍事協定締結説に関する情報報告

南　京　8月2日後発
本　省　8月2日夜着

第六四〇號（極祕、部外祕）
往電第五二四號及第五八九號ニ關シ
最近得タル情報ニ依レハ蘇支軍事協定ハ事實ナルモ唯右ハ蘇聯、南京政府及中國共產黨三者ノ合作ニ係リ表面蘇聯ト中國共產黨ノ名目ヲ用ヒ南京政府ハ關知セサル形ヲ取リ具體的內容ニ付テハ未タ詳ナラサルモ蘇聯側ヨリ中國共產軍側ニ對シ不取敢軍用飛行機二百臺ヲ供給スルモノト言ハル右ハ多少辻褄ノ合ハサル點アルモ最近沈鈞儒等一味ノ保釋出獄、朱德、毛澤東等共產軍首領ノ數箇月前ヨリノ出國說、近クハ周恩來ノ活動振（盧山（廬カ）ニテ蔣介石ト會談ノ上目下南京ニ滯在中ノ噂アリ）等ニモ顧ミ聞込ノ儘不取敢（不在）
北平、天津、上海ヘ轉電セリ

1149　昭和12年8月20日　広田外務大臣より在ソ連邦重光大使宛（電報）

ソ連の対中軍事援助などを骨子とする密約が中ソ間に成立したとの情報について

付　記　昭和十二年八月二十三日付、欧亜局第一課作成覚書

中ソ密約成立説は事実とは思われないとドイツ側回答について

本　省　8月20日後1時50分発

第四一七號（至急）

往電第三二七號ニ關シ

在南京某國側ノ得タル情報ニ據レハ去ル十五日同地ニ於テ「ソ」支密約成立セルカ其ノ内容ハ南京政府ハ中央軍ヲ以テ對日攻勢ニ轉シ且ツ如何ナル國家トモ防共ヲ名トスル協定ヲ締結セサルコトヲ約シ「ソ」聯邦ハ右實行ヲ確認シタル上西安ヲ經テ戰鬪機百五十機ヲ供給シ操縦者第一回四、五十名、第二回四百名ヲ派遣スト云フニ在リ眞相突止メ中ナルモ不取敢

獨、浦潮、哈府、「ノヴォ」へ轉電シ獨ヲシテ英、米、佛、伊、波蘭へ轉電セシム

（付　記）

昭和十二年八月二十三日

「ソ」支密約成立説ニ關スル件　覺

八月二十日東郷局長「ディルクセン」獨逸大使ニ面談「ソ」支密約成立ニ關スル情報ヲ傳ヘ（別ニソノ「ソース」ハ述ヘス）在支獨側ニ於テ可然突キ止メ方希望シタル次第アルトコロ八月二十三日「ネーベル」參事官局長ヲ來訪シ在支獨側ヨリノ電報ニ依レハ右樣ノ情報ハ傳ハリ居ルモ露支密約成立ノコトハ事實トハ思ハレストノコトナリト述ヘタリ依テ局長ヨリ諸般ノ情勢ヨリ判スルニ斯ルコトハ極メテ有リ得ヘキコトト思ハルルニ付今後共注意方希望シ置キタリ

1150　昭和12年8月28日　広田外務大臣より在仏国杉村大使、在米国斎藤大使、在満州国植田大使他宛（電報）

中ソ不侵略条約成立の情報につき通報

付　記　昭和十二年八月二十六日発中国外交部より在本邦中国大使館宛電報写

中ソ不侵略条約締結に際し日中間にも同様の条約締結を歓迎するので日本側の意向打診方訓令

本　省　8月28日後8時50分発

合第一二三八號（至急、極祕）

確實ナル情報ニ據レハ八月二十一日南京ニ於テ「ソ」支兩國間ニ不侵略條約締結セラレ其内容ハ不戰條約ヲ遵守スルコト、締約國ノ一方カ第三國ヨリ侵略セラレタルトキ相手國ハ右第三國ヲ援助セサルコト、本條約ハ兩締約國カ既ニ締結シ居ル二國間及多國間ノ條約ニ影響ヲ及ホササルコト竝ニ條約ハ調印ノ日ヨリ效力ヲ生シ五個年間有效トスルコトヲ規定シ居ル趣ナリ

本電宛先　佛、米、滿、上海、天津、北平

佛ヨリ在歐各大使、波蘭へ轉電アリ度シ

米ヨリ伯、紐育へ轉電アリ度シ

（付　記）

（欄外記入）八月二十六日

南京外交部發、東京支那大使館宛

ソ支兩國不可侵條約ヲ締結ス日本ハ其意ナキヤ如何打診スヘシ

二十六日八一五番電

本部ハ二十一日ニ於テ「ソ」聯ト不可侵條約ヲ締結シ三〇日公布スルコトトナセリ

㈠非戰公約ノ原則ヲ重申シテ互ニ相侵犯セサルコトヲ約定ス

㈡當方カ若シ第三國ノ侵略ヲ受クル時貴方亦タ援助ヲ與ヘサルコト

㈢双方カ以前締結スル所ノ相互及ヒ多邊條約ハ毫モ影響スルトコロナシ

㈣公布ノ日ヨリ效力ヲ發生ス、期間ハ五年トス、六ケ月前ニ廢止ヲ通知セサレハ繼續スルモノトス

約文極メテ簡單ニシテ各國ノ不可侵條約ト大概相同シ、目的ハ僅ニ消極的ヲ以テ和平ヲ維持セントスルニ在ルノミ、絶エテ他ノ意思ナキモノタリ

若シ日本モ速ニ國策ヲ變更シテ我ト同様ノ條約ヲ締結セン

トスルナラハ當方歡迎スル所ナルカ、日本ノ意果シテ如何、打診サレタク、電報ニテ返示サレタシ

（欄外記入）
取扱注意　外部へ漏レサル様
八、二八、藤井少佐ヨリ入手

編　注　広田外相、東郷欧亜局長の閲了サインあり。

1151　昭和12年8月30日　在ソ連邦重光大使より広田外務大臣宛（電報）

ソ連外務部が中ソ不侵略条約締結を発表について

モスクワ　8月30日前発
本　省　8月30日前着

第八〇七號（大至急）
外務部ハ廿九日午後八時半去ル廿一日南京ニ於テ締結ノ蘇支不侵略條約ヲ發表セリ
在歐各大公使、米、伯、滿、阿富汗、波斯ヘ轉電セリ

1152　昭和12年8月30日　在ソ連邦重光大使より広田外務大臣宛（電報）

ソ連が発表した中ソ不侵略条約の条文報告

モスクワ　8月30日前発
本　省　8月30日後着

第八〇八號（至急）
往電第八〇七號ニ關シ[1]
蘇側發表條約露文譯左ノ通リ爲念
蘇聯邦及中華民國間ノ不侵略條約
蘇聯邦政府及中華民國政府ハ一般平和ノ保持ニ貢獻シ兩國ノ間ニ鞏固ナル且恆久的基礎ニ於テ存在スル友好關係ヲ增進シ且一九二八年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル戰爭抛棄ノ條約ニ基キ互ニ負擔セル義務ヲ一層正確ニ確認スル希望ニ動カサレ本條約ヲ締結スルニ決シ之カ爲左ノ通リ全權委員ヲ任命セリ
蘇聯邦中央執行委員會
在中華民國特命全權大使「ドミトリ、ボゴモロフ」
中華民國政府主席閣下
外交部長王寵惠

右委員ハ良好妥當ト認メラレタル各自ノ全權委任狀ヲ交換シタル後左ノ通リ協定セリ

第一條、兩締約國ハ兩國カ國際紛爭解決ノ爲戰爭ニ訴フルコトヲ否認スルコト及相互ノ關係ニ於テ國策ノ具トシテノ戰爭ヲ拋棄スルコトヲ嚴肅ニ確認シ且右義務ノ結果トシテ兩國ハ相互ニ相手國ニ對シ單獨ニ又ハ一箇若クハ數箇ノ第三國ト協同シテ攻擊ヲ爲ササルコトヲ約ス

第二條、兩締約國ノ一方カ一箇若クハ數箇ノ第三國ヨリ攻擊ヲ受クル場合ハ他ノ一方ハ直接ニモ間接ニモ全紛爭期間右一箇若クハ數箇ノ第三國ニ對シ何等ノ援助ヲ與ヘサルコト竝ニ一箇若クハ數箇ノ侵略國カ攻擊ヲ受ケタル締約國ノ爲ニ不利ニ利用スルコトアルヘキ何等ノ行動若クハ協定ヲ爲ササルコトヲ約ス

第三條、本條約ノ義務ハ本條約效力發生迄ニ兩締約國ニ依リ署名セラレ且締結セラレタル兩國間及多數國間ノ諸條約若クハ協定ヨリ生スル兩締約國ノ權利及義務ヲ侵シ又ハ變更スルカ如ク解釋セラレサルヘシ

第四條、本條約ハ英文ヲ以テ二通ヲ作成ス本條約ハ前記委員ニ依リテ署名ノ日ヨリ效力ヲ發生シ五箇年ノ間效力ヲ有ス

兩締約國ハ右期限滿了六箇月前他方ニ對シ條約ノ效力ヲ廢棄スルノ希望ヲ通告スルコトヲ得締約國ノ何レモカ適時ニ右ノ通告ヲ爲ササル場合ハ條約ハ最初ノ期限滿了後二箇年ノ間自動的ニ延長セラレタルモノト認メラルヘシ締約國ノ何レモカ二箇年ノ期限滿了六箇月前條約廢棄ノ希望ヲ他方ニ通告セサル時ハ本條約ハ更ニ二箇年間效力ヲ有ス以後亦之ニ準ス

右證據トシテ兩全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

一九三七年八月二十一日南京ニ於テ之ヲ作成ス

「ボゴモロフ」

王　寵　惠

1153

昭和12年8月30日　在上海岡本総領事より広田外務大臣宛(電報)

中国外交部が中ソ不侵略条約締結を公表し声明書発表について

付　記　昭和十二年八月二十九日

中ソ不侵略条約締結に対して発表されたわが

方外務当局の見解

上　海　8月30日後発
本　省　8月30日後着

第一一九七號

廿九日外交部ハ別電第一一九八號(省略)蘇支不可侵條約「テキスト」ヲ公表スルト共ニ聲明書ヲ發表シ本條約ハ太平洋諸國間ニ不侵略ノ相互保障ヲ爲シ以テ集團的安全ヲ保障スル爲ノ行爲ナリ蘇支兩國ハ本條約ニ於テ不戰條約ヲ確認セシ次第ナルカ本條約ノ條項ハ極メテ簡單消極的ニシテ單ニ不侵略ノ相互保障及侵略國ニ對スル不援助ニ依リ平和ヲ維持セントスルモノニ外ナラス過去十年間各國間ニ多數ノ不侵略條約締結セラレ時ニハ政治的理想ヲ異ニスル場合ニモ締結セラレタルカ本條約ノ趣旨ハ何等是等ト異ナラス支那ハ今日侵略國ニ對シ武力抵抗ヲ爲シツツアルモ右ハ平和愛好カ支那人ノ傳統的特性タルノ事實ヲ變更スルモノニアラス支那ニ對スル侵略國カ右事實ヲ悟リ其ノ國策ヲ變更スルニ於テハ支那ハ極東ニ於ケル平和ヲ維持シ人類ノ福祉ヲ增進スル爲右侵略國ト同樣ノ不侵略條約ヲ締結スル用意アリ本條約カ極東ノ事態改善ノ契機トナルヘキヲ切ニ期待スト述ヘタリ

別電ト共ニ北平、天津、滿ヘ轉電セリ

（付　記）

我外務當局ノ見解（八月二十九日）

支那側カ今次事變勃發以來帝國ニ對シ度重ナル挑戰行爲ニ出テ乍ラ、今更蘇聯邦トノ間ニ所謂不可侵條約ナルモノヲ締結シ、國際紛爭解決ノ爲ニ戰爭ニ訴ヘルコトヲ排擊スル云々ト唱シテ居ルコトハ寧ロ笑止テアル。

「コミンテルン」カ日本ヲ當面ノ敵トシテ準備ヲ進メテヰルコトハ一昨年七月ノ「コミンテルン」大會ニ明ニ宣言シテ居ル通テアツテ、「コミンテルン」ハ之ニヨリ東洋平和ヲ攪亂セント企圖シテヰルノテアルカ故ニ支那側カ「コミンテルン」ノ魔手ニ躍ラサレルコトハ支那自身ノ爲ニモ又東洋平和ノ爲ニモ最モ好マシカラサル處テアリ、帝國ハ終始一貫之ニ對シ支那側ノ反省ヲ促シテ來タノテアル、然ルニ支那側ハ遂ニ惡夢ヨリ醒ムル能ハス、容共抗日ヲ國是トシ殊ニ西安事件以來ハ完全ニ赤魔ノ藥籠中ノモノトナリ、遂ニ今回ノ如キ條約ノ締結ヲ見ルニ至ツタコトハ支那ノ爲

ニ眞ニ採ラサル處テアツテ、支那側カ其本然ノ姿ニ還リ、帝國ト相提携シテ東洋ノ和平確立ノ爲貢獻スル日ノ一日モ速ナランコトヲ希望シテ已マナイ次第テアル。

1154　昭和12年9月1日　広田外務大臣より在仏国杉村大使、在米国斎藤大使宛（電報）

中ソ不侵略条約が東洋の植民地における列国利権排撃の風潮を激化させ政治的影響が多大である旨を任国政府に注意喚起方訓令

本　省　9月1日後8時40分発

合第一三〇三號

「ソ」支不侵略條約ハ「ソ」政府カ從來締結セル同種ノ條約ト内容大差ナキカ如クナルモ殊更不戰條約第一條ヲ引用シ乍ラ從來ノ不侵略條約ト異リ紛爭ノ平和的解決ニ關スル條項ヲ含ミ居ラサルコト及近年「ソ」聯邦ハ此種條約ノ效果少キヲ知リ相互援助條約ニ執着ヲ示シ居ルニ顧ミルモ本條約ハ「ソ」支不侵略ノ約定トシテヨリモ北支事變前後ヨリ頻リニ傳ヘラレタル國民政府ノ容共政策ヲ實證シ且更ニ密接ナル兩國提携ノ何等約束ヲ伴フモノトシテ重要視スヘキモノナリ蓋シ「ソ」支不侵略條約ノ締結ハ數年來ノ懸案ナリシカ國民黨初期ニ於ケル容共政策拋棄ノ經緯、紅軍ノ跋扈、外蒙及新疆問題等ヲ繞リ行惱ミ居タルモノナル處今回急ニ進捗セルハ日支事變ノ影響ニヨリ支那カ一九三五年「コミンテルン」第七回大會ノ「テーゼ」ノ趣旨ニヨリ明確ニ容共聯俄。抗日ノ政策ニ邁進セントスルヲ示スモノニシテ之ヲ「ソ」聯ノ立場ヨリスレハ支那ニ於ケル「コミンテルン」ノ活動及紅軍ノ擡頭以來帝國ノ對支政策上重視セラレ來レル日支間ノ防共協定乃至提携ヲ不可能ナラシムルコトヲ狙ヘルモノナリ次ニ本條約第三條ハ。兩國ノ署名セル二國間又ハ多數國間ノ條約上ノ權利義務カ本條約ニヨリ影響ヲ受ケサルモノナル趣旨ヲ規定シ居ル處右ハ「ソ」蒙相互援助議定書ノ如キモノニハ表向キ觸レサルヤウニシ乍ラ支那側ハ之ヲ既成事實ト認メ深ク追及セサリシモノト觀察セラレ支那側トシテ條約ノ文面ハ兎モ角事實上讓歩ト謂フヘク之ニ徴スルモ「ソ」側ハ本條約以外支那ノ爲殊ニ其長期抗日ニ付何等實質的援助ヲ與フルカ如キ約束ヲナシ居ルヘキハ想像ニ難カラス之本大臣發在「ソ」大使宛電報第四一

七號「ソ」支密約(出所極祕)其他類似ノ情報ノ裏書スル所ナルカ斯ノ如キ「ソ」支提携ノ結果ハ啻ニ我方ニ有害ナルノミナラス「ソ」聯邦ノ勢力ヲ支那ニ扶植シ「コミンテルン」ノ破壞的工作ヲ擴大セシムルト共ニ列國利權排擊ノ風潮ヲ激化シ佛領印度支那、英領印度其他ノ植民地ノ赤化ヲ促進シ益々東洋ノ平和ヲ攪亂スルコトトナルヘク右ハ殊ニ支那及極東ニ利害ヲ有スル諸國ニトリ極メテ重大ナル事實ナルヘシ就テハ貴使ハ適當ノ機會ニ於テ右ノ趣旨ヲ以テ貴任國政府及輿論ヲ啓發セラレ「ソ」支不侵略條約カ表面消極的目的ヲ有スルニ止マルト稱セラルルモ其政治的影響ノ尠カラサル所以ニ對シ注意ヲ喚起セシメラレ度シ

本電宛先　佛、米

佛ヨリ本大臣ノ訓令トシテ蘇ヲ除ク在歐各大使、波蘭ヘ轉電アリ度シ

米ヨリ本大臣發「ソ」宛電報第四一七號ト共ニ伯(訓令トシテ)、紐育、市俄古、桑港ヘ轉電アリ度シ

蘇、滿、上海、天津、北平ヘ轉電セリ

1155

昭和12年9月3日　広田外務大臣より在仏国杉村大使、在米国斎藤大使宛(電報)

中ソ不侵略条約をめぐる在本邦中国大使との会談内容通報

本　省　9月3日後10時45分発

合第一三三九號

一日許支那大使本大臣ヲ來訪シ「ソ」支不侵略條約ニ付其平和的目的及背後ニ軍事的密約ナキコト等一ト通說明セルカ其際第三條ニ據レハ從來ノ「ソ」支條約ハ影響ヲ受ケサルモノナルニヨリ一九二四年ノ「ソ」支條約ニ依リ支那ノ共產主義宣傳禁止及外蒙カ支那ノ領土ナルコトニ變リナキ旨述ヘタリ依テ本大臣ヨリ「ソ」蒙間事實上ノ關係ヲ如何ニ見ルヤ又豫テ我方ヨリ申入レアル日支防共協定ノ締結ニ對シ今回ノ條約ハ理論上支障ヲ生セサルヤト質シタルニ同大使ハ外蒙ニ付單ニ前言ヲ繰返シ又防共ニ付テハ支那ハ依然之ニ努力スヘキモ日本側ト共同シテヤル必要ヲ認メスト言ヒ右質問ニ對シ孰レモ明答ヲ避ケタリ

本電宛先　佛、米

佛ヨリ在歐各大使ヘ轉電アリ度シ
米ヨリ紐育ヘ轉電アリ度シ
滿、上海ヘ轉電セリ

1156　昭和12年9月10日　在ウラジオストック杉下（裕次郎）総領事より広田外務大臣宛（電報）

ソ連当局が極東ソ連領在住朝鮮人の強制移住に着手したとの風評につき報告

ウラジオストック　9月10日後発
本　省　9月10日後着

第※※三八五號

十日當地獨逸領事館雇員ノ廣岡ニ對スル内話ニ依レハ今次蘇側當局ハ極東在住ノ鮮人（軍隊内ニ在ル者ヲモ含ム）ヲ全部奥地、主トシテ中央亞細亞方面ニ强制移住セシムルコトニ決シ既ニ之カ實施ニ着手シ居ルヤノ風評專ラナル趣ナリ右ニ付テハ鮮人間ニ之ニ類スル風評アルハ事實ニシテ且現ニ實行セラレツツアルカ如キモ鮮人全部ノ移住ノ如キハ當地方漁業、農業上ニ及ホスヘキ影響ニモ鑑ミ事實問題トシテ多クノ困難アルヘク俄ニ信シ難キ處右不取敢電報ス
蘇、哈府ヘ轉電セリ

1157　昭和12年9月10日　在ウラジオストック杉下総領事より広田外務大臣宛（電報）

極東ソ連領在住朝鮮人の強制移住に関するソ連側の意図観測について

ウラジオストック　9月10日後発
本　省　9月10日夜着

第※※三八七號（極祕）
往電第三八六號ニ關シ

當地方ノ朝鮮人ヲ强制移住セシメントスル蘇側ノ意圖ノ何ナリヤハ未タ不明ナルモ昨年初頃行ハレタル不良鮮人約一萬人ノ强制移住トハ異ナリ今回ハ先ツ以テ蘇滿國境ニ近接セル地域ヨリ着手シ而モ其ノ全部ヲ極メテ短期間ニ强制移住セシメントスルモノナルヲ以テ或ハ緊迫セル情勢ニ鑑ミ戰爭準備ヲ進メツツアルノ一現象トモ推測セラレ特ニ注意ヲ要スルモノト思考ス尚八月中旬ニ於ケル「ポシエット」方面ヘノ軍隊輸送ハ何等カ本件措置ニ關聯ヲ有シ右地方ノ

住民ノ大半ヲ占ムル朝鮮人間ノ動搖ヲ豫メ防止センカ爲行ハレタルモノトモ推測セラル

蘇、滿、哈府ヘ轉電セリ

1158　昭和12年9月12日　在ウラジオストック杉下総領事より広田外務大臣宛（電報）

ソ連による朝鮮人の強制移住の実施状況等に関する報告

ウラジオストック　9月12日後発

本　省　9月12日夜着

※※第三九五號

往電(1)第三八六號ニ關シ

一、「ウゴリナヤ」ニ居住シ約三箇月前ヨリ當館ニ出國手續ヲ出願シ居リタル一朝鮮人十二日當館ニ出頭セル處同鮮人及右往電冒頭ニ記述セル鮮人（約一年前當館ニ出國手續ヲ出願シ爾來「ウオロシロフ」市ニ在リ今回同地蘇側官憲ヨリ出國査證ヲ與ヘラレ當地ニ來レルモノナリ）ノ言フ所ヲ綜合スルニ左ノ如シ

(イ)日蘇戰爭ノ場合ニハ朝鮮人ハ日本ニ味方スヘシトノ危惧ノ爲今回強制移住行ハル、コトトナリタルモノト鮮人間ニ噂セラレ居レリ

(ロ)移住ニ付テハ十家族ニ一貨車提供セラルトノコトニテ「ウオロシロフ」市ニ於テハ移住汽車旅行ノ爲各自食料ヲ準備スヘキコトヲ命セラレタリ

(ハ)今回ノ强制移住ハ官吏又ハ軍隊内ノ鮮人ニモ及フトノコトニテ現ニ「ウオロシロフ」市民警署ニ勤務セル知リ合ヒノ一鮮人モ既ニ移住ノ準備ヲナシ居リ又三箇月ノ軍事教育ヲ受ケル爲召集セラレ同市鮮人軍隊内ニアリタル鮮人ニシテ移住準備ヲ命セラレ除隊セラレタル者アリ

(ニ)「ハマタン」地方（密山南方地方）ニ於テハ十日十六臺ノ自働車ヲ以テ鮮人ノ移送セラル、ヲ見タル者アリ

(ホ)(2)浦潮市ニ於テハ未タ移住ノ命令與ヘラレサルカ如キ處十二日「バザール」ニ於テ邂逅セル一鮮人（鮮字新聞鮮報ニ勤メ居ル女）ハ同新聞ハ廢刊セラルル模樣ニテ自分等モ奥地ニ移送セラルヘシト語レリト

二、往電第三八五號ノ内話ニ際シ獨逸領事館雇員ハ廣岡ニ對シ最近當地新韓村ニ於テ行ハレタル鮮人ノ或會合カ支那

ニ於ケル日本軍勝利祝賀ノ爲ノ會合ノ如キモノトナリタル事實アル由ナリト述ヘタリ從來新韓村ハ蘇側ニ同化セル鮮人ノ集團ニシテ當地方ニ於ケル反日運動ノ根源ナリシニ鑑ミ右風評ヲ無條件ニテ受入ルルコトヲ得サルハ勿論ナルモ前記(イ)トモ關聯シ右茲ニ附記ス

三、當地ノ狀況トシテハ未タ移住開始セラレタル模樣ナク師範大學其ノ他ノ學校等ニ別ニ異常認メラレス又鮮字新聞鮮報モ十日附迄發行セラレ居ル次第ナル處(同紙ハ一日置ノ發行ナリ而シテ五日ノ紙上ニハ師範大學學生募集ノ廣告モアリ)「バザール」ニ於テハ野菜類賣急キノミナラス家具類ヲ處分セントスル鮮人增加シ鮮人ノ不安示サレ居レリ

蘇、滿ヘ轉電セリ

1159　昭和12年10月7日　広田外務大臣より在ソ連邦重光大使、在独国武者小路大使他宛(電報)

ソ連の対中軍事支援など中ソ密約の存在に関する在本邦ポーランド大使の観察について

本　省　10月7日後3時15分発

合第一九七二號(極祕)

一日波蘭大使本大臣ヲ來訪シ豫テノ約ニヨリ「ソ」支密約ノ存否ニ關スル波側ノ觀察ヲ內報セルカ其要旨左ノ通

一、「ソ」支不侵略條約中ニハ對支援助ノ密約ヲ含マサルモノト推論セラル

二、目下ノ處「ソ」聯ハ積極的干渉ヲ考慮シ居ラス蓋シ日本ハ今次事變ノ爲兵力ヲ消耗スヘキニヨリ「ソ」側ニトリ有利トナリ支那ハ益々共産勢力ニ屈服シ第三國ニヨル干渉ノ可能性增加シツツアルト共ニ「ソ」聯內部ノ危機未タ去ラス赤軍ヲシテ紛爭ニ參加セシムルハ時期尙早ナレハナリ

三、正式外交機關及最近强化シ來レル「コミンテルン」ノ宣傳ヲ通シ行ハルル莫斯科ノ訓令ハ國際的排日戰線ノ結成及對支物質的精神的援助ヲ目的トシ居レルカ「ソ」側カ西班牙ニ對スルト同種ノ技術的援助(武器、彈藥、飛行機及幹部士官ノ供給)ヲ與フルヤウ南京政府ニ約束セルハ疑ナシ尤モ在莫斯科外人消息通ハ斯ル小規模ナル支援ノ意義ハ實質ヨリモ寧ロ宣傳ニ在リトノ意見ナリ「ソ」

聯ハ多量ノ豫備品ヲ西班牙及極東ニ移動シツツアル爲現在手持武器多カラサルニヨリ支那ノ歐米ヨリノ武器購入ニ付「ソ」政府カ「クレヂット」ヲ與ヘタリトノ風説ハ相當確實ナリト認メラル

本電宛先　「ソ」、獨、滿、米、天津、上海、北平

獨ヨリ英、佛、白、伊、波蘭、壽府ヘ暗送アリ度シ

1160　昭和12年12月6日

極東ソ連領在住朝鮮人の強制移住問題に関する情報部長談話

（昭和十二年十二月六日）

極東「ソ」領朝鮮人強制移住問題情報部長談

極東「ソ」領ニハ革命以前ヨリ多數ノ朝鮮人カ居住シテ居ツタカ昭和七年ニハ其數約二十萬ニ達シ、大部分ハ沿海州、烏蘇里州方面ニ於テ農業ニ從事シ米、麥、亞麻、甜菜、煙草等主要農產物ノ耕作ニ當リ、又海岸地方ノ居住者ハ漁業ニ從事シ、孰レモ平和的ニ其經濟生活ヲ營ンテ來タノテアル。然ルニ「ソヴイエト」政府ハ本年九月初ヨリ此等ノ朝鮮人ヲ强制的ニ中央亞細亞方面ニ移住セシメルコトトシタ爲朝鮮人ハ永年ノ居住地ヲ捨テ多大ノ不安裡ニ異域ニ向ツテ輸送セラレツツアル現狀テアル。

朝鮮人ハ韓國時代カラ其國籍ヲ離脫スル方法カナカツタノテアルカ帝國ハ此制度ヲ繼承シテ居ルノテ朝鮮人ハ假リニ他ノ國籍ヲ取得シテモ等シク帝國臣民タルコトニハ變リナク之ハ代々「ソ」領ニ居住シテ來タ朝鮮人ニ付テモ全ク同樣テアルカ、殊ニ在浦潮斯德帝國總領事館ニ登錄セラレ明カニ帝國ノ國籍ヲ有スルモノノミテモ昭和十一年十月一日現在ニ於テ九百七十八人ニ達スル次第テアル。依テ帝國外務省ハ在「ソ」帝國大使館ニ訓令シ强制移住ニ對シ十一月十三日「ソ」側ヘ嚴重抗議セシメ特ニ約一千人ノ朝鮮人ニ付テハ調査方要望セシメタ處十一月二十七日外務人民委員部ヨリ朝鮮人ニ對スル「ソ」聯籍ヲ主張シ我方ノ抗議ヲ受入レ得ナイ旨回答シテ來タカ其ノ理由ナキコトハ明ラカテアツテ我方トシテハ引續キ其主張ヲ堅持シ更ニ適當ノ措置ヲ考慮スルコトトナラウ。

1161　昭和12年12月17日　在ソ連邦重光大使より広田外務大臣宛（電報）

南京陥落後の事変に対するソ連の態度につき観測報告

モスクワ　12月17日後発
本　省　12月18日夜着

第一二九九號（極祕）

往電[1]第一一八五號及第一二二〇號ニ關シ其ノ後ノ情報ヲ綜合シ左ノ通リ御參考迄

一、支那中央軍ノ粉碎セラレテ南京陥落シタル後ハ蔣介石等國民黨右翼若クハ中央ノ勢力失墜ト共ニ左翼ノ勢力ハ愈壓倒的トナリ赤露ハ殆ト完全ニ之ヲ把握シ得タルト共ニ強大ナル日本ノ武力ヲ一層直接ニ感スルコトトナリタル爲出來得ル丈ケ彼等殘黨ヲ援助シ（此ノ意味ニ於テ蘇聯政府特ニ黨部ニ於テ單獨講和ヲ行ハサルヲ條件トシテ武器其ノ他ノ援助ヲ具体的ニ取極ムルコトアリ得ヘク但シ往電第一二七五號參照而シテ支那カ赤露ノ援助ヲ受クル間ハ單獨講和ノ調停ハ困難ト認メラル―往電特第一〇號―）以テ支那中央部ニ於ケル反日中心勢力タラシメ以テ新疆、外蒙ニ於ケル自己ノ武力線及之ニ聯繫スル第八路軍等共產軍ノ前哨タラシメントシ居ルモノノ如シ（武官ヲ以テ猶支那側ノ手ニ殘シ右計畫ノ實現ヲ期シ居ル所以ニシテ南方海岸地方特ニ廣東ニ對スル日本ノ軍事行動ハ英國トノ葛藤ヲ益々深刻ニスル爲赤露ノ密ニ歡迎シ居ルハ新聞報道振ニ依ルモ看取セラル）

二、[2]武器等ノ援助ハ海上ヨリスルハ勿論新疆經由ニ依ルモノモ多量トハ考ヘラレサルモ今日殘リ居ル赤化支那ニ對シテハ上記ノ如ク人民戰線以上ニ密接ノ聯絡ヲ付ケ武器ノ援助モ相當本腰トナルヘク之ト共ニ浦潮及東部西比利亞ノ戰備ハ急速進捗ニ努ムヘキモ戰爭ニ對スル恐怖心ハ強ク日本トノ武力的衝突ハ今日赤露ノ情勢ニ於テハ一層之ヲ避クルニ努ムヘシ（蘇聯ノ現狀ハ大體往電第一一八五？號ノ通リ）

三、英米等ヲシテ介入セシメントスルニ失敗シタル後ハ蘇聯ハ外交上寧ロ孤立ニ還リ（往電第一二二〇號）黨機關ヲ擧ケテ平和擁護、「フアツシヨ」反對ノ「スローガン」ヲ以テ宣傳シ世界ノ輿論ヲ自國ノ有利ニ導カントシ更ニ進ンテ人民戰線ヲ利用シ又ハ社會黨トノ合同實現ニ努メ

（往電第五二六號）若クハ「アムステルダム」勞働黨トノ合併ニ依リ（往電第一二三一號）左翼諸機關ヲ事實外交政策上自己ノ有利ニ國際動員シテ防共運動ニ對抗セントスルモノナリ右ノ方法ハ赤露カ支那問題ニ對シテモ（西班牙問題モ同樣）日本ニ對スル適切有效ノ武器ト信シ居ル次第ナリ

四[3]

右ノ爲ニハ蘇聯ヲ以テ社會主義ノ天國ノ如クニ信セシムルヲ得策トスル次第ニテ今回ノ如キ滑稽ナル選擧ナルモノモ「デモクラシー」ノ典型トシテ連日書立テシメ居ルハ全ク外國特ニ左翼分子ヲシテ蘇聯ハ眞ニ彼等ノ理想國ニシテ强大ナル蘇聯ノ建設ニ依リ又其ノ援助ニ依リテ初メテ彼等自身ノ目的ヲ達成シ得ルモノナルコトヲ信セシメントスルモノナリ從テ今日ノ蘇聯ノ慘憺タル實狀ノ外部ニ洩ルルコトハ彼等ノ極メテ不利トスル所ニシテ昨今極力封鎖政策ヲ執リツツアル所以ナリ

五[4]

共產黨ノ理想タル世界革命、各國ニ於ケル「プロレタリア」ノ獨裁ヲ實現スル爲其ノ足場トシテ社會主義軍國蘇聯ナルモノノ建設（事實ハ主義ヲ離レタルコト多キモ）ヲ爲スモノナルコトハ蘇聯當路ノ絕エス言明シ蘇聯ノ組織モ右ニ出テ居ル次第ナル處實際政策トシテモ歐洲ヲ中心トスル各國ニ於ケル左翼分子カ社會民主黨トノ協力ヨリ離脫シテ共產黨ト協力スルノ傾向ヲ奬勵シ前述ノ如ク國內政治上ノ政策ニ付テ妥協シ外交上ノ共同戰線ニ依リテ左翼ノ合同ニ努メ單ニ民主主義諸國ノミナラス右翼的諸國ニ於テモ其ノ國內ノ動搖ニ向ツテ策動シツツアルモノノ如シ右ハ今回ノ選擧ニ於テ露國市民トシテ當選セル「コミンテルン」書記長「デイミトロフ」カ革命二十年記念日ニ公表セル其ノ政策ニモ明瞭ニ示セル所ナリ（以上ハ我國國內ノ左翼的諸團体ノ國際的又ハ國內的活動ニ關シテモ特ニ注意スヘキ點ト思考ス）

以上之迄ノ報告ト重複スル點アルモ今日特ニ注意ノ要スルコトト思考シ電報添フ

在歐各大使（土ヲ除ク）ヘ暗送セリ

1162　昭和13年1月17日　在スイス天羽公使より広田外務大臣宛（電報）

新疆地方における中ソ関係の現状に関する英国新聞の報道報告

ベルン　1月17日後発
本　省　1月18日前着

第一〇號

一月五日ノ倫敦「タイムス」ハ新疆ノ情勢ニ付新疆ニ於テハ客年五月東干族及土耳古族ノ叛亂アリ一時ハ成功シタリシモ盛世才ハ蘇聯ノ援助ヲ得テ十月叛亂ヲ平定シ内部ニ幾多ノ難關アルモ政權ヲ確立セリトノ記事ヲ掲ケ更ニ論説ニ於テ盛ハ莫斯科ニ負フ所鮮カラサルモ今ヤ國家ノ危機アルニ加ヘ中央政府ヨリ官吏派遣アリシ爲蘇聯顧問ニ對スル態度ヲ硬化シタリ然レト支那政府カ今ヤ海ニ依ル出口ヲ失ヒ中央亞細亞ノ「キヤラバン」ノ途ニ依ルノ外ナキ今日ニ於テハ新疆ハ支那ニ取リテハ特ニ意義アルモノナルカ此ノ途カ露國ノ國境迄飛行機ニ依リ聯絡セラルルハ幸ナリト論評セル處之ヨリ先右「アフガニ」カ九月新疆ヨリ得タル情報トシテ提供セルモノハ右叛亂ノ狀況ヲ詳述シタル上「ウルムチ」ノ「イスラム」政府カ蘇聯ニ援助ヲ求メタルハ英國ヲ嫌ヒタルト蘇聯ハ統治者トシテニアラス同盟トシテ對等ノ地位ニアリテ援助スル爲ナルカ蘇聯ハ最近「イスラム」ニ對シテ蘇聯ヲ經由シテ「メツカ」ニ行クコトヲ許シタルノミナラス二百八十名ノ「イスラム」ヲ蘇聯政府ノ費用ニテ「メツカ」ニ送リ途中莫斯科ニ於テハ之ヲ優待シ又蘇聯ノ通商代表カ新疆ニ來リ無線機械其ノ他ノ贈物ヲ爲ス等東干族ノ懷柔等ニモ腐心シ居レリ併シ新疆住民タル「イスラム」ハ心中蘇聯ニ反感ヲ有ス云々トアリ

1163　昭和13年4月5日
ソ連の対中軍事援助を非難した情報部長談話

蘇聯邦ノ對支援助ニ關スル情報部長談(四月五日)

支那事變勃發以來蘇聯邦ノ對支援助ハ或ハ中國共産黨ヲ通シ或ハ直接武器ノ供給ニ依ツテ行ハレテ來タカ昨今益々露骨トナリ蘇聯邦政府ハ赤軍將士ヲ支那ニ派遣(遣カ)シテ直接支那側ノ作戰ニ參加セシメテ居ル事實カ明瞭トナツタ其ノ實例ノ一二ヲ擧クレハ一月二十六日支那軍航空隊南京空襲ノ際我軍ニ依ツテ擊墜セラレタ飛行機ト共ニ墜死シタ搭乘者二名ハ其所持品等ニ依ツテ蘇聯邦人テアルコトカ明カトナツタカ更ニ三月十四日蕪湖上空ニ襲來シ我軍ニ擊墜セラレタ「エス・ベー」型爆擊機乘組員テ我軍ノ捕虜トナツタ「ド

ウニン・ミハエル・アンドレーウイツチ」ハ「レニングラード」航空隊附航空兵中尉テ客年十月中旬十數名ノ同僚ト共ニ蘇政府ノ命ニ依リ支那ニ派遣セラレタモノテアルコトカ判明シタ外國人ノ入國滞在スラモ極度ニ警戒シテ實際上鎖國ニ近キ狀態ニアリ、マシテ政府ノ命ニ依ラサル自國人ノ外國行ヲ嚴禁シテ居ル蘇聯邦ノ軍人カ支那軍ニ參加スルコトハ所謂義勇兵ナリトノ論ヲ以テ辯解シテモ何人モ之ヲ信スルモノハナイテアラウ。

又蘇聯邦ニ於ケル軍事航空、民間航空共ニ蘇政府ノ統制下ニアリ蘇聯飛士ハ軍人飛行家タルト民間飛行家タルトヲ問ハス義勇兵ト看ナスコトハ出來ナイノテアル。

蘇聯邦ハ我方官憲ノ取調ヘヲ受ケテ居ル船舶ヤ滿洲國ノ北鐵代償金支拂停止ノ問題ヲトリ上ケテ自己ノ對支援助行爲ヲ辯護シテ居ルカ見當違ヒモ甚シイ。

蘇聯邦ノ對支援助カ蘇政府直接ノ命令指導ノ下ニ行ハレテ居ルコトハ疑ヒヲ容レス蘇聯邦其場限リノ辯解如何ハ我方トシテ最早問題トスルニ足リヌ。

編　注　本文書は、昭和十三年十二月、情報部作成「支那事變關係公表集（第三號）」から抜粋。

1164

昭和13年5月3日

ソ連の対中軍事援助は対日敵対行為と認めざるを得ないと重光大使より同国政府に厳重申入れた旨の情報部長談話

「ソ」聯ノ對支援助ニ關スル情報部長談（五月三日）

「ソ」聯邦カ昨年ノ十月頃カラ本年ノ四月中頃迄ニ支那ニ送ツタ、イ十五型、イ十六型驅逐機、「エス・ベー」爆擊機等ハ總數約五百機ニ上リ「ソ」聯人飛行士、機關士ハ約二百人ニ達シテ居ルト見ラレル。而シテ右飛行機ノ大部分ハ我航空兵力ノ爲ニ擊墜又ハ爆破セラレタカラ殘存スルモノハ僅ニ百內外テアラウカ此ノ一例ニ於テモ明白ナル通リ「ソ」聯ノ支那ニ對スル武器、人員ノ供給ハ今後モ根强ク繼續セラレルモノト認メラレル。

去ル一月二十六日南京ヲ空襲シ我軍ノ爲ニ擊墜サレタ飛行機ノ搭乘者二人（墜死）カ「ソ」聯人テアツタコト又三月十四日蕪湖ニ襲來シ是亦我軍ノ爲擊墜サレタ飛行機カ「エ

ス・ベー」爆撃機テアリ其ノ搭乗者ニシテ我軍ノ爲メ捕虜トナツタモノカ本人ノ陳述ニヨリ「レーニングラード」航空隊附航空兵中尉テアツタコトノ「ソ」聯對支援助ニ關スル確證カ擧ツタコトハ曩ニ發表ノ通リテアルカ廣田大臣ハ去ル三月二十八日在京「ソ」聯大使ト會談ノ際嚴ニ「ソ」側ノ注意ヲ喚起スルト共ニ在「ソ」重光大使ヲシテ「ソ」政府ニ嚴重申入ヲ爲サシメタノテアル。

重光大使ハ四月四日「リトヴイノフ」外務委員ニ面會シ前記ノ如キ「ソ」聯對支援助ノ確證事實ヲ詳細ニ述ヘタル後斯ノ如キ對支援助ハ「ソ」聯ノ實狀竝制度ニ鑑ミ同政府直接指揮ノ下ニ支那ヲ通シテ我方ニ對シ行ハルル「ソ」聯自體ノ敵對行爲ト認メサルヲ得ナイ。玆ニ政府ノ訓令ニ基イテ斯ル行爲ニ由テ生スルコトアルヘキ事態ニ對シテハ「ソ」聯邦政府ニ於テ一切ノ責任ヲ負ハネハナラヌト申入レタ此ノ申入ニ對シ「リトヴイノフ」氏ハ支那ニ武器ヲ賣込ミ居ルハ「ソ」聯ノミニ非ス。「ソ」聯ハ軍隊又ハ個々ノ軍人ヲ戰鬪行爲ニ參加セシムル爲メ支那ニ送ツテハ居ラナイ。前記捕虜、飛行士ノ陳述ナルモノハ信憑スルニ足ラヌ。支那軍中ニハ種々ノ外國義勇兵カアルニ拘ラス日本ハ是等ニ對シテ何等苦情ヲ言ハヌ等ト勝手ナ言譯ヲシタノテ重光大使ハ貴下ハ本使今日ノ申入ノ重大ナル意味ヲ誤解サレテ居ル樣テアルカ支那ニ於ケル事態ハ議論スル迄モナク御承知ノ通リテアツテ此ノ重大ナル場面ニ於テ「ソ」聯ノ現役軍人カ政府ノ命令ニ依ツテ支那ニ赴キ在支日本軍ニ對シ敵對行爲ヲ爲スコトニ對シ日本政府カ本日ノ如キ嚴重ナル申入ヲナスハ當然テアル。「ソ」聯邦ノ制度ニ依レハ義勇兵ナト言フ樣ナモノハ有リ得ナイノテ皆政府ノ命令ニ依テ飛行機、飛行士トモ外國ヘ赴クモノテ現役軍人カ政府ノ命ニ依テ支那ニ赴キ對日戰鬪ニ參加スルカ如キコトハ外ノ國ニ付テハ考ヘラレナイ。若シ「ソ」聯ト同樣ノ行動ヲ取ル國カアリトスレハ日本政府ハ斯ル國ニ對シ「ソ」聯ニ對スルト同樣ノ態度ニ出ツルモノト考ヘルト反駁シ「ソ」政府ノ猛省ヲ促シタ。

「ソ」聯ノ對支援助ニ付テハ其ノ後日「ソ」諸懸案解決方ノ交渉ニ際シ四月十一日井上歐亞局長ヨリ在京「ソ」聯大使館參事官ニ對シ「ソ」聯飛行機及飛行士カ支那軍中ニアツテ我軍ニ敵對行爲ヲ繼續シテ居ルコトハ日本國民ノ到底看過シ得ナイ重大問題テアルコトヲ指摘シ重ネテ「ソ」側

ノ深甚ナル注意ヲ喚起シタ次第テアル。
今次支那事變發生以來「ソ」政府カ今日迄物質的精神的ニ支那ヲ援ケ又我國ニ對シ恰モ敵國ニ對スルカ如キ輿論ヲ喚起シツツアルコトニ對シテハ我國民擧ツテ重大ナル關心ヲ有スルモノテアル、吾人ハ「ソ」側カ帝國ノ東亞ニ於ケル地位ヲ正解シ早キニ及ンテ其對支態度ヲ改メンコトヲ强ク要望スル。

編　注　本文書は、昭和十三年十二月、情報部作成「支那事變關係公表集(第三號)」から抜粋。

1165　昭和14年3月24日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛(電報)

ソ連と新疆政府との秘密協定に関する諜報報告

上　海　3月24日後発
本　省　3月24日後着

第七六八號

A[1]Tヨリ當地蘇聯總領事館ニ於テ遇然(偶カ)ノ機會ヨリ客年八月迪化ニ於テ蘇聯及新疆將領政府間ニ締結セラレタル條約ヲ閲讀シタリトテ其ノ内容ヲ報告シ來レル處要領左ノ如シ

一、旅行居住ノ自由
二、相互ニ對手國ニ對スル敵對行爲及宣傳ヲ慎ミ又對手國ニ對シ敵意ヲ有スル個人又ハ團体ノ入國及居住ヲ禁止ス
三、通商自由
四、郵便電信及航空聯絡ノ擴張
五、蘇聯人ニ對シ新疆側ハ其ノ領域内ニ於ケル地下埋藏物ノ調査及採掘ヲ許可ス
六、新疆側ハ第三國人ノ爲設ケラレアル工業及林業ニ關スル諸制限ヲ蘇聯人ニ關スル限リ撤去シ又將來此ノ種制限ヲ設ケサルコトヲ約シ及蘇聯人ニ對シ土地所有權ヲ許與ス
七、關税ノ政訂(改カ)
八、新疆側ハ蘇聯及外蒙共和國ニ近接セル地域ニ於ケル防備ヲ撤去シ且將來之ヲ回復セス
九、新疆側ハ蘇聯武官ノ新疆内ノ旅行及居住ノ自由ヲ認ム
一〇、新疆内ニ於テ罪ヲ犯シタル蘇聯人ハ之ヲ蘇聯總領事館ニ引渡ス

一、本條約ハ調印ノ日ヨリ效力ヲ發生ス[2]
二、本條約ハ蘇支兩國文ヲ以テ作製シ双方ヲ以テ正文トス

本條約ニハ蘇聯側ヨリ「エー、イー、トクマーコフ」大佐及「ヤー、ネーマン」新疆側ヨリ陶希傑署名シ居リ尚左ノ如キ祕(密)條項含マレ居レリ

一、蘇聯カ第三國ト開戰ノ場合新疆側ハ其ノ經濟資源及交通路ヲ蘇聯ノ支配下ニ置ク

二、新疆側ハ其ノ各軍事機關内ニ軍事顧問及教官トシテ蘇聯人ヲ招聘シ及蘇聯人教官指導ノ下ニ軍官學校ヲ開設ス

三、蘇聯側ハ新疆ニ對シ農業開發及道路改善ノ爲借(款)ヲ供與ス

四、新疆側ハ其ノ領域内ニ於テ現在蘇聯ニ於テ實施セラレ居ルカ如キ政治的及經濟的「アイデイア」ノ普及ヲ妨ケサルモノトス

ATノ閲讀セルハ寫ニテ其ノ末尾ニ漢口蘇聯大使館ノ原文ニ相違ナキ旨ノ認證アリタル由ナリ(委細郵送ス)

本件發表方ニ關シテハ當地「アーベンド」邊リヲ利用スヘク研究中ナリ

北京、天津、南京ヘ轉電セリ

1166

昭和14年4月21日　在包頭遠藤(秀造)分館主任より有田外務大臣宛(電報)

盛世才が新疆全域を武力制圧し西北貿易が活性化しつつあるとの情報報告

包　頭　4月21日後発
本　省　4月22日前着

第一七號(部外極祕)

最近ニ於ケル新疆、寧夏方面ニ關スル情報御參考迄左ノ通リ尚本電ハ機微ニ亘ル點アリ部外極祕扱ヲ請フ

一、(一語不明)新疆擾亂後東罕軍ノ馮部ヲ率ヰテ南新疆「ホタン」ニ蟠踞シ居リタル馬和善(調査部飜譯ニ係ル「ピーター」「フレーミング」ノ新疆旅行記ニハ馬仲英ノ異母弟トアルモ年齢其ノ他ヨリシテ馬ノ叔父ニ當ル由)哈密警備司令纏回「ヨルボルス」(姚樂博士)及「ヨ」ノ一族ハ客年三月頃新疆省ヲ追ハレ目下西寧ニ在リ馬部側ニテ庇護ヲ受ケ居レリ

一、一方「カシガル」政權(一九三三年九月)領袖黒々孜(「キルギス」人)「マームード」モ「カシガル」ヲ脱出シ現在甲谷陀ニ於テ英國官憲ノ保護下ニ生存シ新疆ハ南北共

廸化政權（盛世才「ホジヤニヤス」）ニ表面統一セラレ居ルモノノ如シ

一、寧夏ヨリ「オルドス」ヲ縱斷シ包頭ニ達スル所謂西北貿易ハ客年十二月以來完全ニ杜絶シ居タルカ四月ニ入リ俄然活潑トナリ既ニ駱駝約三百頭ノ來往ヲ見ルニ至レリ（價格ニシテ約三十萬圓主トシテ毛皮羊毛類ヲ積載ス）今後右ハ回教軍ヲ編制シ關外公路ヲ確保セントスル目的ヲ以テ軍側指導ノ下ニ三月十日當地ニ設立セラレタル西北保商督辦公署（督辦ハ舊馬福祥ノ部下蔣輯若）ノ工作如何ニ依リテハ相當ノ動キヲ見ルヘシ

張家口ヘ轉電セリ

1167　昭和15年3月21日　在独国宇佐美臨時代理大使より有田外務大臣宛（電報）

ソ連と重慶政権との関係および新疆方面のソ連動静に関する独国外務省よりの情報報告

ベルリン　3月21日後発
本　省　3月22日後着

第二八〇號

二十一日獨外務省極東課長「クノール」ノ本官ニ對スル談話要領左ノ通リ

一、獨逸ハ支那新中央政府ニ對シテハ事實上ノ關係ヲ保持スルコトトナルヘキモ直ニ正式承認ヲ爲スコトトハナラサルヘク右ハ暫ク支那ノ情勢ヲ見タル上考究スルコトトナルヘシ

二、獨外務省ハ在重慶「ピッター」參事官ニ對シ蔣介石ト蘇聯邦トノ關係調査方訓令シタル處「ピ」ハ本月甘肅新疆方面ニ旅行シタル上最近報告アリタルカ其ノ結論ニ依レハ蘇聯邦ノ對蔣援助ハ極メテ些少ニシテ兩者ノ關係ハ決シテ良好ナラス又新疆方面ハ全ク蘇聯邦ノ勢力下ニ在ル趣ナリ尚在蘇獨大使館ノ報告ニ依レハ蘇聯邦ノ蔣政權ニ對スル最近ノ態度ハ恰モ西班牙ノ赤色政權カ絶望ニ陥レル當時ノ態度ニ類似シ居リ蔣ニ對スル熱意ハ窺ハレサル由ナリ

伊、蘇ヘ轉電セリ

1168　昭和16年8月26日　在上海堀内総領事より豊田外務大臣宛（電報）

中ソ軍事会議がチタで開催され重慶側が西北および内蒙地方での軍事合作を要望したとの諜報報告

上　海　8月26日後発
本　省　8月26日夜着

第一五九四號
往電第一五五二號ニ關シ
HQニ依レハ蘇支軍事會議ハ八月七日ヨリ十四日迄一週間「チタ」ニ於テ開催會談前後五回ニ亘リ楊杰ヨリ西北及北支ニ於ケル重慶軍ノ兵力及配備狀況ヲ說明スルト共ニ西北及內蒙區ノ蘇支軍事合作ニ關スル重慶側ノ意見ヲ開陳黃光銳ヨリ西北空軍ノ强化及蘇支空軍合作ニ關スル基本的意見ヲ說明シテ協議ニ入リ差當リ蘇聯赤軍ヨリ第一區新疆青海甘肅寧夏第二區陝西河南第三區山西綏遠察哈爾第四區翼(冀カ)晋邊區ヲ指定シ夫々軍事視察團ヲ派遣スル代リニ重慶代表中ヨリ外蒙及外蒙蘇聯邊境竝ニ滿蘇邊境軍事狀況視察ノ爲六名編成ノ視察團二組ヲ派遣スルコトニ決定セル趣ナリ尙往電第一三八四號二ノ中共代表中毛澤東ハ八月九日延安ニ歸來セルコト判明セルカ中共代表ノ「チタ」行キハ蘇支軍事會議ニ關係無ク八路軍ノ新裝備ニ關スル打合セニアリタル由
南大、滿、北大ヘ轉電セリ

1169　昭和16年9月6日　在滿州国梅津(美治郎)大使より豊田外務大臣宛(電報)

チタでの中ソ軍事会議をソ連側は否定しているが諜報によれば大体事実と認められる旨報告

新　京　9月6日後発
本　省　9月6日夜着

第六〇三號
往電第五六九號ニ關シ
蘇側ハ「チ」會議ヲ否定セル處本件眞相調査ノ爲滿洲里ニ出張セシメタル當館齋藤囑託ノ報告ニ依レハ「チタ」會議ハ左記事情ニ依リ大體事實ト認メラル御參考迄
冒頭往電ノ情報ハ滿洲里滿側警察カ「チタ」間ヲ往復スル「モ」鐵從業員聯絡者ヨリ入手セルモノニテ同聯絡員ノ言ニ依レハ重慶代表ノ「チタ」到着ノ際ハ蘇側ハ熾ナル歡迎ヲ爲シ且當局ハ市民ニ對シ重慶代表ノ來「チ」ハ蘇支軍事

同盟締結ノ爲ナリト言明シ居リ又市民ハ支那側ノ一行中ニハ「楊」代表及「毛」代表ノ氏名ヲ口ニシ「チタ」當局ハ「支那側代表ハ「チタ」ニ十日間滞在ノ上莫斯科ニ赴ク」旨語リ居リタル趣ナリ

1170　昭和16年10月4日　在上海堀内総領事より豊田外務大臣宛（電報）

中ソ軍事協力交渉に関する情報報告

上　海　10月4日後発
本　省　10月4日夜着

第一八二七號

往電第一五五二號及第一六六六號ニ關シ

HQハ館員ニ對シ程潛楊杰ハ莫斯科ニ於テ蘇聯邦當局ト協議中ナルカ蔣介石カ九月二十一日「スターリン」宛書翰ニ於テ内外蒙ノ共同防衛及赤軍指導ニ依ル西北軍ノ强化問題ヲ中心トスル蘇支合作交渉ノ熱意ヲ表明セル點ヨリ見テ前記兩名ノ協議モ此等ノ問題ニ關聯スルハ勿論ナルカ九月二十三日重慶大公報カ蔣ノ意ヲ受ケ英米蘇ノ莫斯科會談ト日蘇關係ノ惡化及蘇支合作ニ依ル對日戰ノ遂行ヲ强調セル社說ヲ發表スルコトトナリ居タレルカ其ノ直前「パ」蘇聯邦大使ヨリ現下ノ情勢上蘇支關係ヲ露骨ニ表明セル此ノ種社說ハ面白カラスト注意アリ之カ發表ヲ見合セタル事實ニ聽（微カ）スルモ現下蘇聯邦ノ複雜微妙ナル意圖ヲ窺知シ得ヘシト内話セル由御參考迄

南大、北大、香港、滿へ轉電セリ

1171　昭和16年10月25日　在上海堀内総領事より東郷外務大臣宛（電報）

中ソ軍事協力交渉が英国の斡旋により順調に進捗しているとの諜報報告

上　海　10月25日後発
本　省　10月25日後着

第一九六三號

往電第一八二七號ニ關シ

HQニ依レハ重慶側ノ提起セル蘇支兩軍ノ外蒙共同防衛及蘇聯赤軍ノ西北地區實力援助案ヲ繞ル蘇支軍事合作交渉ハ「カー」英大使斡旋下ニ蔣介石及「パ」蘇聯大使間ニ順調進捗中ナルカ最近蘇側ノ西北軍事援助實施方法決定ノ爲蘇

支混合視察委員ヲ現地ニ派遣スルコトニ決定シ蘇側ハ大使館附武官重慶側ハ馮玉祥、徐源泉、胡宗南、朱紹良ヲ豫定シ英米軍事專門家モ若干同行スル筈ニテ「パ」大使ハ其ノ結果ヲ待チ本件打合セノ爲一時歸國スル段取ナル由

南京、北京、香港へ轉電セリ